

(19)日本国特許庁(JP)

(12)公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

特開2022-22663
(P2022-22663A)

(43)公開日

令和4年2月7日(2022. 2. 7)

(51)Int. Cl.	F I	テーマコード (参考)
B 0 1 J 2/00 (2006. 01)	B 0 1 J 2/00 B	4 C 0 7 6
A 6 1 K 9/50 (2006. 01)	A 6 1 K 9/50	4 C 0 8 4
A 6 1 K 9/62 (2006. 01)	A 6 1 K 9/62	4 C 0 8 6
A 6 1 K 9/58 (2006. 01)	A 6 1 K 9/58	4 G 0 0 4
A 6 1 K 9/60 (2006. 01)	A 6 1 K 9/60	4 G 0 3 5

審査請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 20 頁) 最終頁に続く

(21)出願番号 特願2020-113637(P2020-113637)

(22)出願日 令和2年6月30日(2020. 6. 30)

特許法第30条第2項適用申請有り 令和2年3月2日
化学工学会第85年会講演要旨集(講演番号PE394)のウェブサイトにて公開(http://www3.scej.org/meeting/85a/pages/jp_announcement.html)

(特許庁注: 以下のものは登録商標)

1. ノンシール

(71)出願人 598015084

学校法人福岡大学
福岡県福岡市城南区七隈8丁目19番1号

(74)代理人 100182084

弁理士 中道 佳博

(74)代理人 100207136

弁理士 藤原 有希

(72)発明者 三島 健司

福岡県福岡市城南区七隈8丁目19番1号
学校法人福岡大学内

(72)発明者 徳永 真一

福岡県福岡市城南区七隈8丁目19番1号
学校法人福岡大学内

最終頁に続く

(54)【発明の名称】コーティング粒子の製造方法

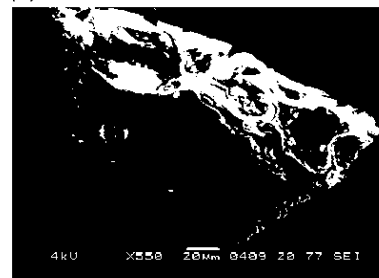
(57)【要約】

【課題】 タンパク質や生理活性物質などの易熱変性芯材粒子をその性質を保持したまま内包することができる、コーティング粒子の製造方法を提供すること。

【解決手段】 本発明のコーティング粒子の製造方法は、閉塞容器内において、易熱変性芯材粒子、超臨界流体親和性樹脂、および超臨界流体を35 から55 の温度にて混合する工程、ならびに閉塞容器内を開放して、易熱変性芯材粒子を超臨界流体親和性樹脂でコーティングする工程を包含する。超臨界流体親和性樹脂は天然高分子および生分解性高分子からなる群から選択される少なくとも1種の樹脂である。

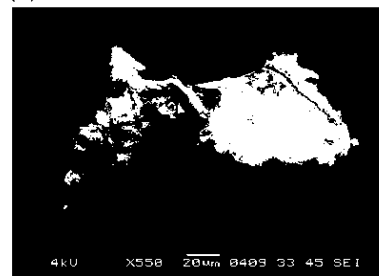
【選択図】 図2

(a) ラクトフェリン粒子(原末)



(平均粒子径: 45.5µm)

(b) 実施例1のコーティング粒子(E1)



(平均粒子径: 60.0µm)